

出生率 過去最低 1.26

厚生労働省は2日、2022年の人口動態統計を公表しました。1人の女性が生涯に産む子どもの推計人数を示す合計特殊出生率は過去最低(05年)と並ぶ1.26で、17年ぶりの低水準となりました。年間出生数は77万747人で、1899年の統計開始以来、初めて80万人を割り込みました。

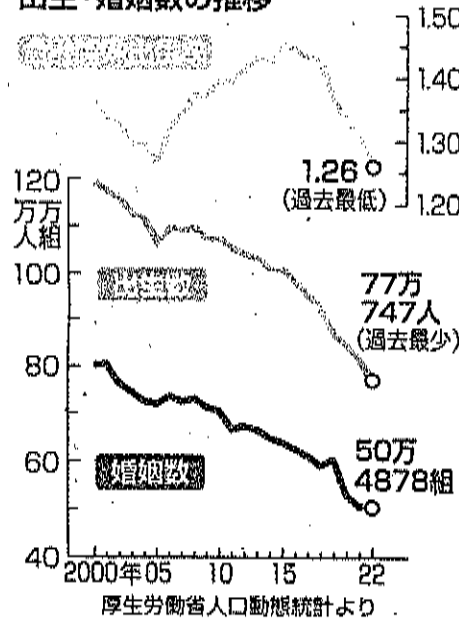
新型コロナウイルスの感染

拡大などで20、21年の婚姻数は戦後最少を更新し、生まれた赤ちゃんの数に影響したとみられます。厚労省の担当者は「妊娠や出産、育児に不安を感じるなど、少なからず新型コロナウイルスが影響した可能性がある」と話しました。

必要とされる出生率は2.07。第1次ベビーブーム(1947〜49年)には4を超過し、第2次ベビーブーム(71〜74年)は2.07を超過した。

コロナ影響 17年ぶり低水準 22年赤ちゃん80万人割る

合計特殊出生率と出生・婚姻数の推移



74年)は2を上回っていましたが、大きく回復することなく05年に過去最低の1.26を記録しました。21年は1.30でした。

都道府県別では、沖縄の1.70が最も高く、宮崎1.63、鳥取1.60が続きました。最も低かったのは東京の1.04でした。

出生数は16年に100万人、19年に90万人を下回っており、22年まで7年連続の減少となりました。第1子出生時の母親の平均年齢は、21年と並び過去最高の30.9歳でした。